

購買依頼書を“運ぶ日々”に終止符
現場と管理部門、双方の負担を軽減した新たな仕組み

MISUMI
flow

株式会社放電精密加工研究所



社名	株式会社放電精密加工研究所
業種	精密機械器具
従業員数	733名(連結) / 544名(単体) ※2025年2月現在

株式会社放電精密加工研究所様のインタビュー全編はこちら →



Point

- コスト削減効果：ミスミPB品集約によるコスト削減
- データ活用効果：使用量データ活用（予算計画+製造ライン異常検知）
- 在庫管理業務削減効果：メンタルコストからの解放

導入前の課題

紙の購買依頼書がもたらす“在庫切れ”のプレッシャー

T.K さま：以前は、現場が紙の購買依頼書を作成し、私が管理部門に渡す流れでした。依頼は毎日4〜5枚、多い日で10枚ほど発生し、紙の受け渡しだけでも手間でした。現場担当者は週に一度在庫数を確認し、不足分を手書きで依頼書に記入、上長の押印をもらい提出していました。現場業務の合間の作業は負担が大きく、私が伝達漏れを起こすこともありました。属人的なフローゆえミスが起きやすかったです。

H.H さま：仕入れ先が複数あり、取引先ごとに異なる方法でやり取りしていたため、管理部門の負担が高く、注文作業に時間がかかっていました。保管スペースの都合で少量ずつ頻繁に注文する必要があり、注文回数が多くなりがちでした。在庫切れの際は他部署から借りることもありました。現場からは仕組み改善の声がありましたが、紙ベースの運用が長く、属人的な管理が続いていました。そのため使用実績や在庫消費の傾向も把握しづらい状況でした。

導入の決め手

現場起点の課題意識と他拠点での実績、“業務負担を減らす手段”としての確信

H.H さま：「MISUMI flow」を知ったのは、厚木工場で先に導入されていたからです。元上長が厚木工場にいて、「小牧工場でも合いそうだ」と紹介してもらったのがきっかけでした。

T.K さま：必要な時に消耗品を自販機で取れるのは現場にとって大きな助けです。毎日の購買依頼書作成が不要になることで、負担が大きく減ると感じました。

H.H さま：在庫を持たずに済み、使用履歴も残るため、これまで属人的にカウントしていた在庫数を、仕組みでカバーできるのが魅力的でした。導入前は不安の声もありましたが、ミスミの説明会で理解が深まり、徐々に不安も減りました。間接部門として、現場が本来の業務に集中できるよう手間を減らす仕組みは積極的に取り入れたいと考えています。



導入後の効果 / 社内の反応

万が一の在庫切れに備えなくていい、「必要な時に、すぐそこにある」環境へ

T.K さま：購入依頼書の記入が不要になり、現場からも「助かっている」という声が上がっています。必要なときにすぐ使える安心感もあり、個人的にも非常に便利です。

H.H さま：管理部門の工数が大幅に削減され、現場社員の“念のため”による過剰在庫も不要になりました。ミスミが定期的に補充してくれるので、消耗品の保管スペースも不要になりました。

T.K さま：導入後は、使用量や工数削減がダッシュボードで可視化でき、数値として見えると導入効果を実感できますし、次の改善にもつながると思います。

H.H さま：導入に合わせてアイテムも見直し、ミスミ製品に変えてからは品質改善やコスト削減にもつながりました。自販機の操作もICカードや顔認証で簡単に使い、トラブルなく現場に馴染んでいます。

今後の展望

自販機データ活用で実現する製造現場のペーパーレス化と業務改善

T.K さま：現在、自販機の品目は固定されていますが、現場から「他の商品も扱えないか？」という声が出ています。便利さを実感すると、さらに活用したいという要望が自然と増えると感じます。今後もあるアイテムがあれば積極的に検討したいです。

H.H さま：使用データが可視化されたことで、製品の入れ替えや棚割の見直しなどの改善の根拠ができました。単なる数量管理だけでなく、作業実態や負荷まで分析し、改善に活かせるようになりました。製造現場のペーパーレス化が進む中、自販機導入は有効な事例となり、今後も他領域で効率化を進めていきたいです。

